

高校図書館部会による WEB 展示

展示・生徒図書委員会・ 推奨図書・イチオシ本の紹介

■はじめに

今年度で 16 回目となる「図書館と県民のつどい埼玉 2022」は、新型コロナウイルスが収まる気配がないので、昨年と同じくオンラインで開催されました。

はじめてのオンライン開催だった昨年の例にならって準備を進めていきましたが、昨年通りに行かないことが多々ありました。会議も対面ではなかなか開けないので、インターネットを使って会議やリハーサルを行い、電話やメール、Google Classroom など連絡を取り合い、協力して制作作業を進めました。

■実行委員

高校図書館部会の実行委員は、地区ネットワークの持ち回りになっています。今回は、東部 A ネットワーク（越谷地区）から5名、南部 E ネットワーク（川口地区）から6名の計 11 名が担当することになりました。

はじめての実行委員会だけは、2022 年8月4日（木）に越ヶ谷高校で、対面で実施しました。そこで顔合わせをして、役割分担、企画の内容を検討して決定、Google Classroom の設定などを行いました。

相談しながらタイトルまで決めたのが、以下の企画です。

<WEB 展示>

うちの推し、集めてみました。(越谷)
本×青春(アガル) != 高校の図書委員会
(川口)
県民が選んだ埼玉県推奨図書
司書が選んだイチオシ本

<Live イベント>

高校図書館をのぞいてみよう 越谷エリア
高校図書館をのぞいてみよう 川口エリア

■準備

それ以後、それぞれの分担で準備を進めました。

WEB 展示は、高校図書館の様子を伝えるために、各校での展示を紹介することにしました。テーマ展示は、高校生の興味や生活に合わせて、ほとんどの高校図書館で、様々なコーナーが作られています。図書館関係者の実務にも役立つように、ブックリストも付けました。

また図書委員の生徒たちは、図書館運営の大事なスタッフなので、彼らがどのような活動や取り組みをしているかも伝えることにしました。

WEB 展示の制作は、テーマ別に写真を収集してレイアウトをするのですが、ウェブサイトに入れ込むのに非常に苦労しているように見えました。パソコンで見ると、スマホで見るとは見え方が違ったりしたようです。ウェブページの構築は、日頃の業務ではあまり経験がなく IT スキルの高い人がいないと太刀打ちできないという声も上がりました。

Live イベントは、各学校の紹介で、テーマを決めて写真を集め、許可を得て昨年の Power Point に写真を入れ込みました。

以下はWEB 展示のそれぞれのバナーと、担当者による内容紹介です。(高校の Live イベントの紹介は、別のページにあります。)

■WEB 展示①うちの推し、集めてみました。



この企画は今年の担当の東部Aネットワーク(越谷市を中心とした地区)のメンバーから各校で行った展示写真を集め、フォトアルバムにまとめたものです。

高校図書館では折に触れ、さまざまな展示を行います。学校の特色や司書の個性によってもテーマや本の選択、飾り方は多彩で、会議などで他校の図書館を訪れる際の楽しみになっていたりします。司書だけでなく、図書委員などの生徒たちがテーマ選びやポップ作成に関わることもあります。

集まった32の展示写真は「季節・学校行事」「授業とコラボ」「時事ネタ」「生徒たちのも素敵です」「エトセトラ」と、テーマごとに分け4つにまとめ、それに加え展示で使われた資料のリストをPDF形式で掲載しました。展示によっては相当な冊数となったため、書名とISBNのみを記載し、埼玉県立図書館のウェブサイト内の「埼玉県内図書館横断検索」にリンクをはり、詳しい書誌事項はそちらを参照してもらう、という工夫をしました。

ウェブサイト上で見やすいように調整するのにかなり苦心しましたが、掲載した写真を、展示を作成する際のヒント、きっかけとして活用いただければと思います。

■WEB 展示②本×青春! = 高校の図書委員会



図書委員会活動をテーマに戸田・蕨・川口市内の9つの高校図書館を紹介したWEB展示です。

高校生たちが委員会の活動を通じて読書や図書館に親しみ、また高校生同士の交流を深

めていく様子を写真等で紹介しました。

この展示では、図書委員会活動を「日常風景」「イベント」「展示」「広報」「地域協力」「まだまだある!(その他)」の6項目に分けました。書架整理やカウンター作業といった「日常風景」以外にも、文化祭やビブリオバトルなど、その時にしか見られない「イベント」に励む様子も掲載しました。「展示」や「広報」では各校の特色を一覧で見比べることができます。独自性の強い「地域協力」では、高校生たちと司書が学校図書館の活動を校外へ広げる新規の取り組みを紹介しました。

さらに、本イベントのため各校の図書委員長から「図書館 or 図書委員会にハッシュタグをつけるなら?」への写真付き回答を募りました。生徒のアイデアにより「図書館と県民のつどい埼玉」公式Twitterで実際のハッシュタグとしても使われました。

今回の展示で、積極的に図書館に関わる高校生たちの姿や、読書・学習だけではなく図書館サービスをアピールできました。

■WEB 展示③県民が選んだ埼玉県推奨図書



令和4年度埼玉県推奨図書に関するWEB展示です。埼玉県では青少年の皆さんに読んでいただきたい図書を、推奨図書として毎年選定しています。

展示は、高校図書館部会が県民生活部青少年課と協力して行っています。実地の会場で行われる場合は実物の図書を展示。WEBが会場の場合は、県庁やブックフェア等での展示の様子、各種資料のデータを掲載しています。

掲載した情報は、青少年課推奨図書のパージへのリンク、推奨図書一覧のポスター、巡回展示の写真、次年度推奨図書候補作の推薦に関する応募要項などです。

例年「図書館と県民のつどい埼玉」における会場展示は、来場者の方々から埼玉県推奨図書に関するご意見を集め、青少年課にお伝えすることができる貴重な場となっていました。新型コロナウイルスの感染状況が改善せず、昨年度に引き続き WEB 開催となりましたが、オンラインであっても、「図書館と県民のつどい埼玉」推奨図書のページからの応募やアンケートなどによって、県民のみなさまからのご意見収集の機会を継続していく予定です。

■WEB 展示④

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本



「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」は、県内の高校図書館司書の投票によって、過去1年間に出版された本の中から「高校生におすすめしたい」ベストテンを決めるブックランキングです。

有志の県立高校司書・県立図書館司書で組織された実行委員によって運営されており、「イチオシ本 2022」で 13 回目を迎えます。投票には毎年 100 人以上の高校図書館司書（私立高校の専任司書教諭を含む）が参加しており、毎年2月の発表後には、県内の書店や公共図書館で「イチオシ本フェア」が行われるなど県内に深く定着しています。

「図書館と県民のつどい埼玉」がリアル開催

の際は、「イチオシ本」に選ばれた作品を展示していましたが、オンライン開催となった昨年度からは、ウェブ展示での参加となりました。今年度は昨年度同様、イチオシ本公式サイトへのリンク掲載に加え、「イチオシ本豆知識」として①選考について②年間スケジュール③実行委員会④イチ王子についての記事、そしてイチオシ本 YouTube のリンクを掲載しました。

実際にパンフレットや本を手にとっていただくことはできませんでしたが、公式サイトや YouTube をご覧になった方が、「イチオシ本」の取り組みに、少しでも興味を持っていただけたら嬉しく思います。

■最後に

今回は、2度目のオンライン開催ということでしたが、ウェブサイトへの掲載がなかなかスムーズにいきませんでした。IT スキルの高い人がいないとできないオンライン開催への参加は、ハードルが高いと感じます。

「図書館と県民のつどい 2022」全体の Live 配信視聴者は昨年度の 726 人から 401 人と半減したと聞きました。宣伝活動も気が抜けないということでしょう。

「図書館と県民のつどい埼玉」の最終的な目的は、県内の図書館、県立図書館、公共図書館、大学図書館、高校図書館が協力して、埼玉県民の図書館に対する理解を深めてもらうことです。コロナ禍でいたし方ないところもありますが、足を運べる範囲の人がリアルに対話しながら、いろいろな図書館体験をしてもらうところに、意義があるのではないのでしょうか？

来年はコロナが収まって、リアル開催ができることを望みます。

(記録：埼玉県立越ヶ谷高校図書館 石黒 順子)